

## [成果情報名]簡易雨よけの設置やカサかけによるブドウ晩腐病の防除効果

[要約]簡易雨よけの設置やカサかけはブドウ晩腐病の発生を抑制できる。また、梅雨期の降水量が多い年に効果はより明確になる。

[担当]山梨県果樹試験場・環境部・病害虫科・内田一秀

[分類]技術・普及

---

### [背景・ねらい]

梅雨期が長く、降水量が多かった 2020 年は、全県的にブドウ晩腐病が多発した。雨媒伝染性である本病は、花（果）房に雨を当てないことで被害を抑制できることが知られている。そこで、簡易雨よけの設置やカサかけによるブドウ晩腐病の防除効果を再検証する。

### [成果の内容・特徴]

1. 簡易雨よけの設置やカサかけにより、ブドウ晩腐病の発生程度は大幅に抑制される（表 1、表 2）。
2. 簡易雨よけの設置によるブドウ晩腐病の防除効果は、梅雨期の降水量が少なかった年（2016 年、平年値の約 0.6 倍：甲府）にも認められるが、多かった年（2020 年、平年値の約 2.7 倍：甲府）には、より明確に現れる（表 1）。

### [成果の活用上の留意点]

1. 簡易雨よけのビニール被覆は萌芽前に行う。また、着色系品種の場合、栽培地域によっては高温による着色障害のおそれがあるため、必要に応じて被覆の除去を行う。
2. カサかけや袋かけはできるだけ早く実施し、果房に雨を当てないようにする。
3. 「果樹病害虫防除暦」ならびに「ブドウ晩腐病防除マニュアル（令和 2 年 12 月発行）」に従って、防除を徹底する。
4. 簡易雨よけは幅約 1.2m、長さ約 2.5m のトンネルメッシュ、カサは 9 寸のロウ引きを用いた。

### [期待される効果]

天候不順年におけるブドウ晩腐病の防除効果が高まり、品質・収量が向上する。

[具体的データ]

表1 簡易雨よけ設置によるブドウ晩腐病の防除効果

調査年、地点 品種(樹齢) <sup>z</sup>	試験区	調査 房数	発生程度別房数 <sup>y</sup>					発病房率 (%)	発病度 <sup>x</sup>
			無	少	中	多	甚		
少雨年 (2016年)									
甲州市	簡易雨よけ	634	633	1	0	0	0	0.2	0.0
ピオーネ(16)	露地(袋かけ)	299	278	13	7	1	0	7.0	1.9
山梨市	簡易雨よけ	200	200	0	0	0	0	0.0	0.0
シャインマスカット①(6)	露地(袋かけ)	200	197	3	0	0	0	1.5	0.2
山梨市	簡易雨よけ	200	200	0	0	0	0	0.0	0.0
シャインマスカット②(6)	露地(袋かけ)	200	199	1	0	0	0	0.5	0.1
多雨年 (2020年)									
果試	簡易雨よけ	71	71	0	0	0	0	0.0	0.0
ピオーネ(26)	露地(袋かけ) <sup>w</sup>	63	46	11	6	0	0	27.0	6.6
果試	簡易雨よけ	29	29	0	0	0	0	0.0	0.0
ブラックキング①(10)	露地(袋かけ) <sup>w</sup>	27	22	3	1	1	0	18.5	5.8
果試	簡易雨よけ	80	78	2	0	0	0	2.5	0.4
ブラックキング②(10)	露地(袋かけ) <sup>w</sup>	79	67	12	0	0	0	15.2	2.2

表2 醸造用「甲州」におけるカサかけや簡易雨よけ設置によるブドウ晩腐病の防除効果

調査年 地点(樹齢) <sup>z</sup>	試験区	調査 房数	発生程度別房数 <sup>y</sup>					発病房率 (%)	発病度 <sup>x</sup>
			無	少	中	多	甚		
多雨年 (2020年)									
果試 (13)	カサ <sup>w</sup>	41	39	2	0	0	0	4.9	0.7
	簡易雨よけ	70	69	1	0	0	0	1.4	0.2
	露地	40	31	7	2	0	0	22.5	4.6
果試 (10)	カサ <sup>w</sup>	79	73	4	2	0	0	7.6	1.8
	簡易雨よけ	77	76	1	0	0	0	1.3	0.2
	露地	81	63	16	2	0	0	22.2	3.9
甲斐市 (7)	簡易雨よけ	112	108	4	0	0	0	3.6	0.5
	露地	117	60	23	15	4	15	48.7	23.6

脚注は表1、表2共通。

z 全ての供試樹は短梢剪定。防除は各ほ場管理者の慣行による。

y 発生程度は以下の基準で分類した。

無：発病果粒なし。少：1房あたり6%以下の果粒が発病。中：1房あたり6～20%の果粒が発病。

多：1房あたり21～50%の果粒が発病。甚：1房あたり51%以上の果粒が発病。

x 発病度 =  $(7 \times \text{甚} + 5 \times \text{多} + 3 \times \text{中} + \text{少}) / (7 \times \text{調査果房数}) \times 100$

w 果試における果実袋は摘粒後(6/29)、カサは結実確認後(6/23)にかけた。

[その他]

研究課題名：ブドウ及び核果類等の病害虫薬剤防除法の改善 (S54～)

小課題1 環境に配慮した病害虫防除法の改善 (H25～)

研究期間：2016、2020年度

研究担当者：内田一秀、綿打享子、塩谷諭史、向山佳代、宇土幸伸、網中麻子、渡辺晃樹、

鷹野公嗣、桐原 峻